



「おや、これはこれは―!」

彼が差し出したのは、黒く艶やかな石ころ。掌に乗せてみると、つるりとして、妙に気持ちがいい。

「お前さん、この石が何か分かるかね?」

「さて、魔法の石とか?」

「まあ、そんなところだな。昔っから、心を映す鏡なんて言われてる」

「じゃあ、俺の心はどうだ?」

彼はじっと石を覗き込み、すぐにふつと笑った。

「真っ黒や」

「オブシディアン（黒曜石）」

